

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施におけるリハ専門職の役割と活動

講師：公益社団法人石川県理学療法士会 石田修也

2020年3月厚生労働省からの通知により高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施においてリハ専門職の配置が認められました。その中でリハ専門職の役割は、大きく分けて2つ、高齢者に対する個別的支援（ハイリスクアプローチ）と通いの場等への積極的支援（ポピュレーションアプローチ）となります。ハイリスクアプローチにおいては重症化予防（3次予防）への関与であり、ポピュレーションアプローチは現在も行われている地域リハビリテーション支援事業による通いの場支援のさらなる強化（1次予防+2次予防）ということになります。全体を通してのターゲットは高齢者のフレイル予防となっています。



フレイル予防は今回のコロナウイルス完成拡大に伴う新しい生活様式において介護予防そして保健事業としてより重要度が増してきていると考えられます。リハ専門職は今後爆発的に増える後期高齢者に対応できる運動機能や口腔機能の低下を予防し、社会参加を促すような、社会の仕組みを構築していく大事な役割となりえます。当会では、2020年6月頃より能登地区を中心に行政に対して一体的実施におけるリハ職の活用を促すよう働きかけを行ってきました。その際に、重要視したポイントは3つ、①住民への教育、②住民の役割づくり、③適切な評価と助言、となります。①と②はポピュレーションアプローチにおける役割、③はハイリスクアプローチにおける役割となりますが、この3つどれもが行政担当者にとってはリハ職の関わりとして目新しいものとして映ったことは反省すべき点でした。また、奥能登地区ではこの事業を実施するにあたり、専門職の資源不足といった問題点が明らかになりました。

今回の活動の結果、当会では1市において次年度より一体的実施での活動をスタートさせることとなりました。一方で、専門職の資源不足への対策としてオンラインを活用した事業を公益社団法人日本理学療法士協会とともにシルバーリハビリ体操全国オンラインフェスティバルとして企画し、2月8日に当会が運営実施いたしました。厚生労働省からも過疎地支援のひとつの方策として認識いただける結果となり、新たな支援ツールとして今後発展させていきたいと考えております。

